

都市再生整備計画事業 フォローアップ報告書
新発田北部地区

平成24年2月

新潟県新発田市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4- 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	日交通量 / 交通容量	1.5	1.0	1.0	確定		あり	1.3	H23年6月		期待以上に車両交通が中環状道路に流入した	改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	交通容量を超える車両が、当計画で整備した道路に流入し、見込値を下回る結果となった。 しかし、都市計画道路と都市計画道路を結ぶ抜け道として利用され、以前は慢性的に混雑していた生活道路(有効幅員5m程度・歩道無し)の交通量が、整備後には約6分の1に減少した。 この生活道路について近隣市立中学校の学生にアンケート調査をおこなったが、“以前と比較して歩行者・自転車通行者にとって安全になった”と評価した生徒が74%にのぼり、歩行者・自転車通行時の安全感は整備以前より大きく向上したと認識している。 数値としては目標値を下回ったものの、整備の効果は良好と認識している。
指標2	分	10	8	8	確定		あり	8	H23年10月			改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	見込値どおりの結果となった。 加えて、都市計画道路本町島湯線と中環状線の交差点信号が矢印式信号機に改良されたことと相まって、混雑時間帯においても大きな時間的ロスなく安定した移動が可能となった。
指標3	人	0	100	100	確定		あり	102	H23年3月			改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	ワークショップは5回開催し、延102人の住民が参加した。 作成した町内会防災マップについては、対象自治会約500世帯に配布した。 このマップ作成ワークショップをきっかけに、地域における自主防災組織立ち上げ気運が高まり、平成23年冬より当ワークショップ参加者と自治会役員を中心に、町内会自主防災組織立ち上げの活動を開始すること。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4- その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	台/日	4,800	/	6,600	確定		/	10,300	H23年6月	/	期待以上に車両交通がシフトした	改善策はそのまま改善策に補強が必要新たに改善策をたてる	交通量が交通容量を超過している状況は将来解消されるものとする(国道7号の4車線化事業が完了すれば、中環状道路の交通量が国道7号にシフトするものとする)

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項	
・成果を持続させるために 行う方策	道路交通ネットワークの確立	外環状道路と中環状道路の全区間供用、合わせて中環状道路とJR新発田駅地下通路東口とのアクセス強化のため、当計画で整備した〔都市計画道路 島潟荒町線〕の南東方向の未整備区間の供用を目指し、その財源となる国庫交付金の交付を要望した。	社会資本整備総合交付金の交付決定を受け、平成23年度から、下記の整備事業に取り組むこととなった。 【事業名】 五十公野公園荒町線整備事業 西新発田五十公野線整備事業(東豊工区) 島潟荒町線整備事業	計画期間内供用を目指しその進捗を図る。 最終年度:平成26年度 島潟荒町線整備事業 最終年度:平成27年度 五十公野公園荒町線整備事業 西新発田五十公野線整備事業(東豊工区)
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	道路交通ネットワークの確立 中環状道路と外環状道路のアクセス機能の向上	県施工の〔都市計画道路本町中田町線〕の整備及び国施工の国道7号の4車線化の早期竣工を要望、事業の促進に協力する。	〔都市計画道路本町中田町線〕の国道7号取り付けから約600m区間については、平成24年完成予定となっている。 また、平成22年12月の北陸地方整備局事業評価監視委員会の国道7号新発田拡幅再評価資料において、国道7号 中曽根町交差点～三日市交差点間の4車線化は事業継続とされている。	引き続き早期竣工を要望、促進の進捗に協力する。
	中環状道路の主要交差点における右折環境改善	〔都市計画道路本町島潟線〕と中環状線の〔都市計画道路西新発田五十公野線〕の交差点が右折困難となっており、指標2の成果を減じている状況であったため、事後評価委員会においてその状況を踏まえ矢印式信号機への改良を要望した。	平成23年10月から当該交差点の信号機については矢印式信号機に改良され、右折時において円滑な通り抜けが可能となった。	引き続き円滑な交通環境への改善・維持に努める。
	交通事故を予防する意識の啓発	交通指導車等による街頭指導や近隣市立学校での交通指導を実施している。 また、新発田地区交通安全協会・交通安全母の会等の役員において、道路新設地区における戸別訪問に取り組んだとの報告を受けている。	平成21年度の暫定整備以降、平成23年秋までの間、近隣の市立本丸中学校生徒が関与する交通事故発生事例はないとのこと。	引き続き啓発活動・交通指導を継続する。

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項